

整理番号：6－1

提言題名：地震や水害対策について

【提言の要旨】

現在の日本各地の避難所はプライバシーが尊重されず、体育館での雑魚寝が主だといえます。正常性バイアスによりなかなか避難が進まず、結果として逃げ遅れた方の救助の数が増えてしまうといったことも、もしプライバシーが尊重されていて、それが周知されていたら違うのではないかと感じています。（ここでのプライバシーは視線が遮られ、着替えなどの秘密が守られるという意味です。男女問わずです。）さきの台風では都内の避難所の対応に困られた方も多かったようです。ただでさえ不安ななか毛布一枚で床に寝なければならず、一睡も出来ない方も多かったようです。プライバシーが守られていたら起きないトラブルも多々想定できると思います。2016年グッドデザイン賞の紙と布の間仕切りも素晴らしいですが、イタリアのようにテントと簡易ベッドが用意されていると誰でも安心できると思います。守られる安心感を得て市民の防災意識も上がるのではないのでしょうか。

（令和2年3月受付）

【回答の要旨】

この度は、「市長への手紙」を頂きありがとうございます。防災対策担当課であります安全安心対策課より回答させていただきます。

現在、災害時の避難所は取手市も含め、全国的に学校の体育館が主に指定されており、ご指摘のようにプライバシーの確保をはじめ、トイレ等、様々な避難所の課題があることを認識しております。

市では「取手市地域防災計画」や「取手市避難所運営マニュアル」におきまして、避難所においても男女の性差の違いやプライバシーに関して、できるだけ配慮するように努めることを基本方針としております。

そのため、避難所におけるプライバシーの確保等について、間仕切り・段ボールベッド等の備蓄を進めております。

なお、昨年は、障がい者団体等と連携し、初めて「避難所体育館における福祉スペース設置訓練」を実施し、その検証を行っているところです。

今後も、避難所の課題解決に向けて、こうした取り組みを進めてまいりますので、何卒、ご理解・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

（安全安心対策課 令和2年3月回答）